

水を育む森づくり

サントリー「天然水の森」

サントリーホールディングス株式会社
エコ戦略本部・R&D企画部 山田 健

サントリーは水の会社。
いい水がなければ、ビールも、ウイスキーも、
清涼飲料も、
なにひとつつづることが出来ない。

水 特に良質な天然水は、
サントリーという会社の生命線。

その生命線の「持続可能性」を守るために
行っている活動が、「天然水の森」と名づけた
水源林保全活動。

サントリー天然水の森とは

全国の工場の水源涵養エリアで、
地下水を育む力の大きい森を目指して、
森林整備をして行こうという活動。

2003年に設定した「天然水の森 阿蘇」からスタートし、
現在整備している森林の面積は、

全国で7,300ヘクタール。

これは、東京の山手線内の面積以上。
大阪環状線内のほぼ2倍の広さ。

この面積は、
工場で汲み上げている地下水 < 森での地下水涵養量
という理念を満たす広さ。

サントリー天然水の森は
ボランティア活動ではない。

サントリーグループの事業活動の生命線である
「水の持続可能性(サステナビリティ)」を支える
基幹事業。

森林整備の目標は、大きく分けて、以下の5つ。

水源涵養林としての高い機能を持った森林

生物多様性に富んだ森林

洪水・土砂災害などに強い森林

CO₂の吸収力の高い森林

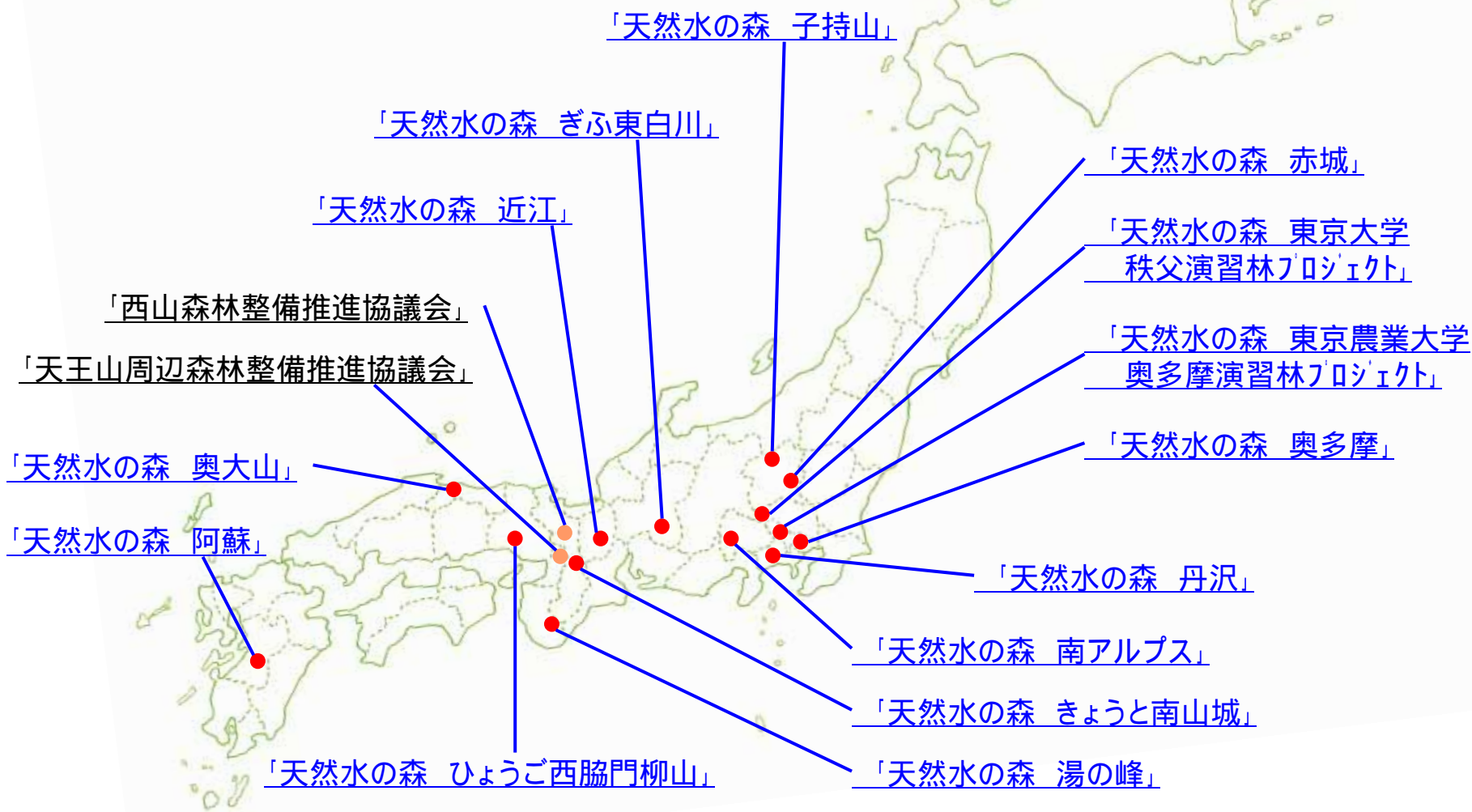
豊かな自然と触れ合える美しい森林

サントリー「天然水の森」等 活動状況

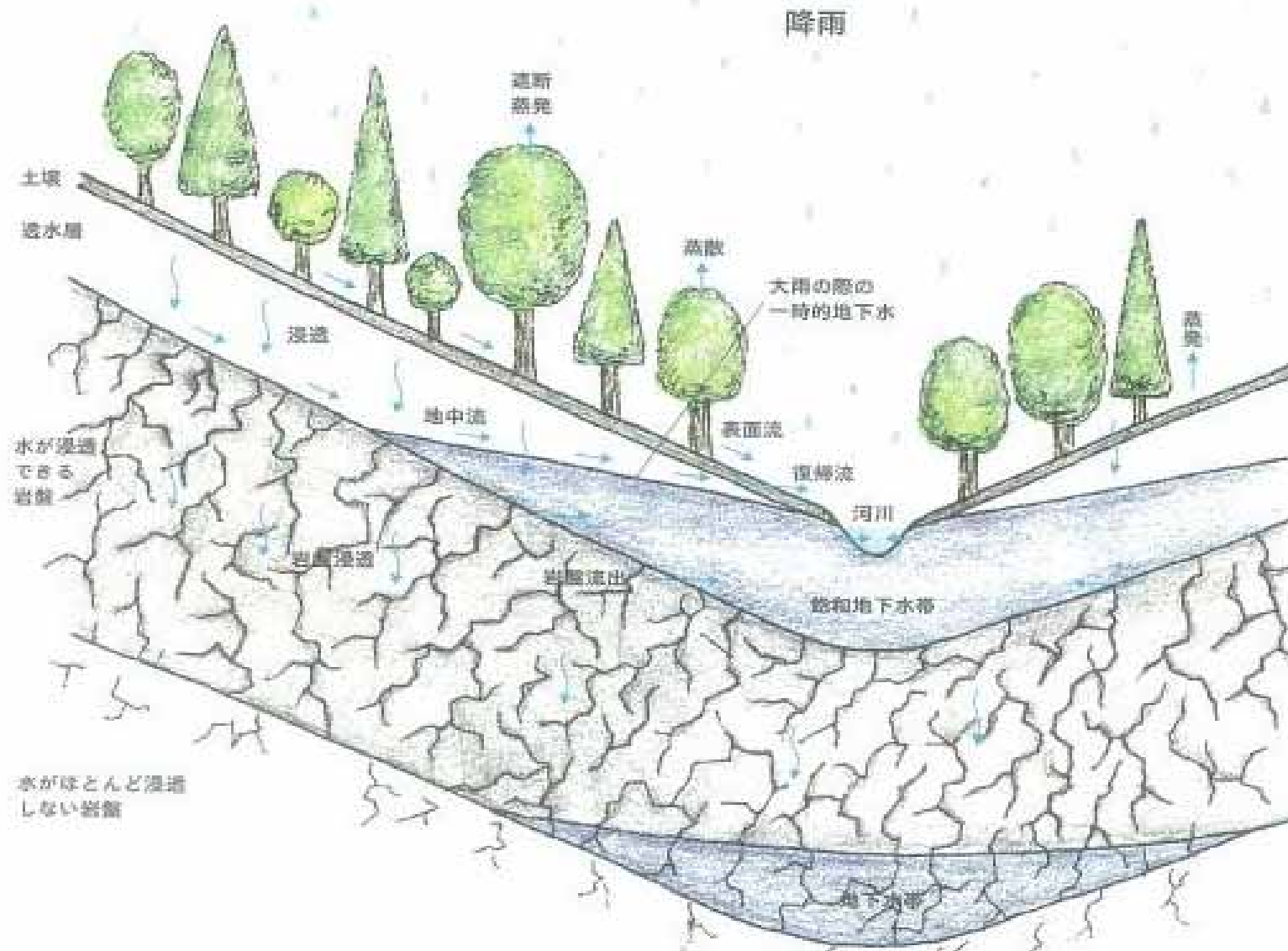
「天然水の森」 全国14箇所 約7,300ha

その他に「協議会」活動 全国2箇所 約1,050ha

2011年11月30日現在

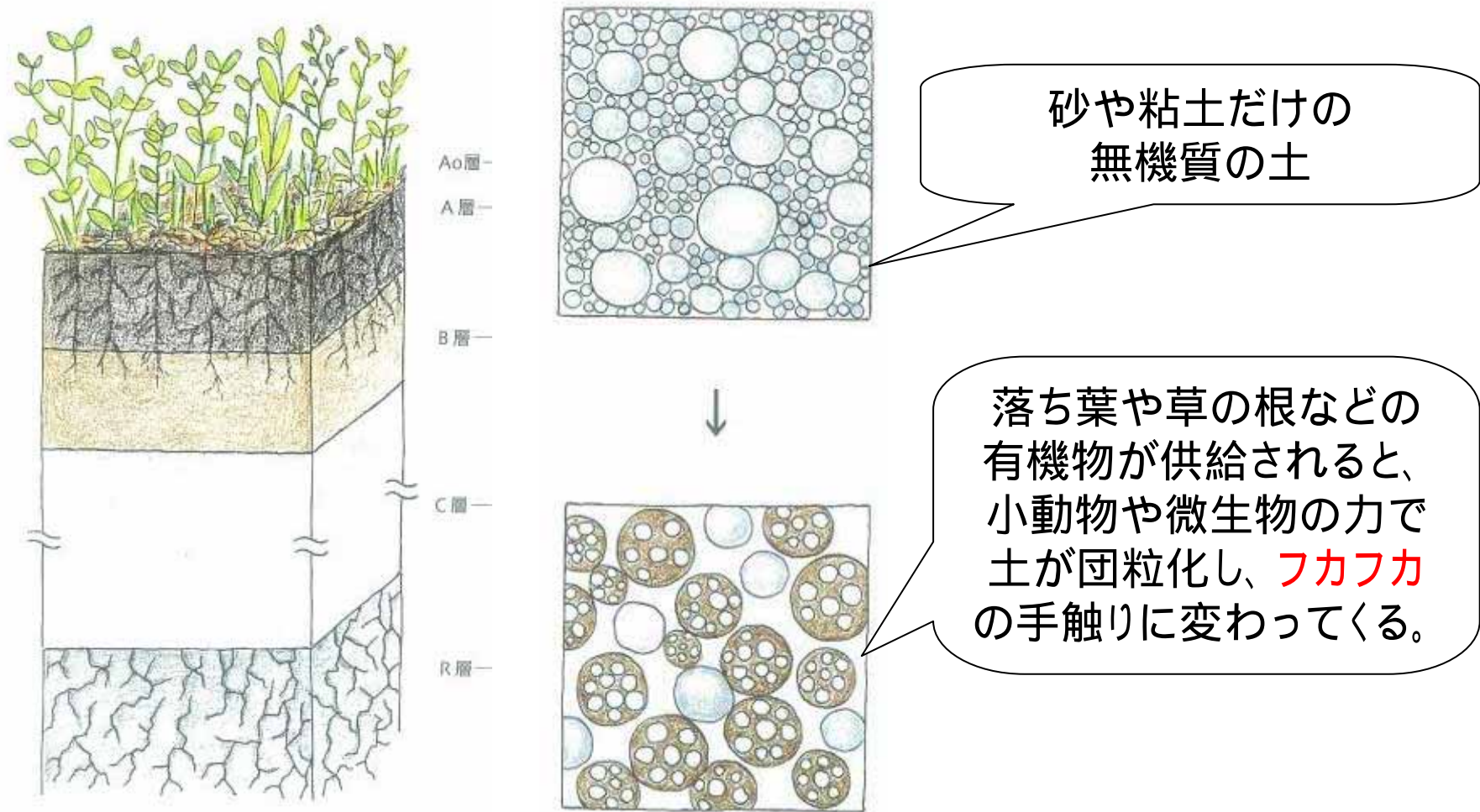


そもそも地下水は、どうやって涵養されているのだろうか？



降雨でもたらされた水が、蒸発や蒸散、表面流などで失われず、大地に浸透していったものが地下水。

「天然水の森」の水源涵養活動とは、地下水を育むのに最適な土壌、
即ち、有機的な「**団粒構造**」を持つ土づくりが最終目標になります。



つまり、豊かな地下水を育むためには、
団粒化した土壌を
厚く育てていくことが重要。

しかし、畑と違い、
森の土は耕すことができない。

そこで、

木や草、動物や微生物の力を借りて、
土を耕すことになる。

健全な森づくり 水づくりの目標は、
実は土づくりにある。

では、
具体的にどんな活動を
しているかというと。

まずは水文調査 社内の**水科学研究所**が主体となり、
工場の水源涵養エリアがどこかを特定する。



水の成分分析や、地下の地質・地層の調査、工場とその周辺の井戸情報などにより、
どこから、どのような地層を通して、
どのくらいの歳月をかけて流れてきた水なのかを、推定していく。

すべての森を研究者の演習林に



九州大学 金澤先生



東京大学 徳永先生



東京農工大学 石川先生

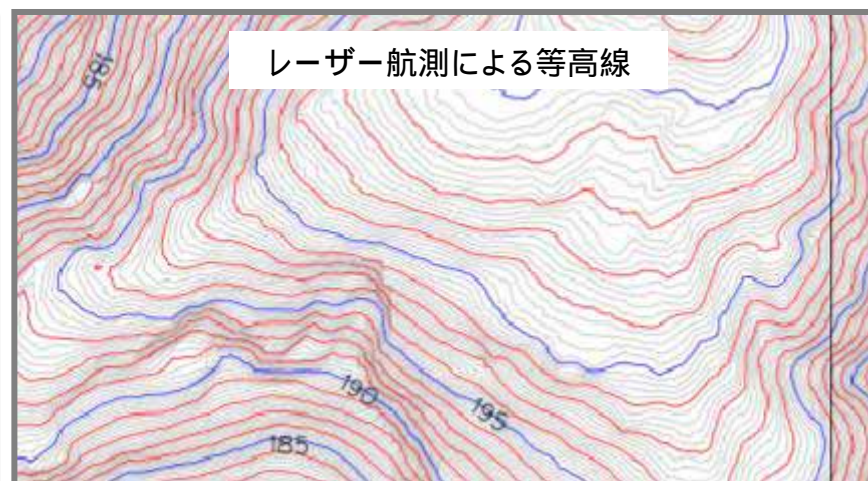


東京大学 片山先生

「天然水の森 南アルプス」の研究チームです。

水文学はもちろん、植生、土壌、鳥類、昆虫、砂防、微生物など、多彩な研究陣とともに、保水力が高く、水質浄化機能の高い「土づくり」に繋がる整備計画を立案します。

レーザー航測など、最新の技術を駆使した植生調査を実施



植生調査に基づいたゾーニングを行い、
ゾーンごとに最適な施業方法を探っていきます。

整備が遅れた人工林を健全な生産林へ誘導

枝打ち前

枝打ち後



プロによる間伐



「間伐」や「枝打ち」の実施により林床に「光」が入ると、やがて下層植生が繁茂し、生物多様性も拡大します。ふかふかの土壌が形成され、水源涵養等の機能も増進されます。



社員による枝打ち体験

間伐・枝打ちで明るくなった森



明らかに成長の悪い針葉樹林は針広混交林へ誘導

放置林の中



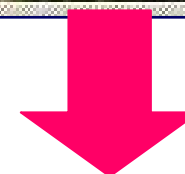
手入れ不足で暗く、しかも成長の悪いヒノキ林。
元々、ヒノキの植林には向いておらず、
生産林への誘導が不可能な土地。

こういう場所では、杉・ヒノキなどの針葉樹
を思い切り多めに伐って、
針葉樹と広葉樹が混じり合う
「**針広混交林**」に誘導する場合があります。

放置林



放置林



針広混交林



針広混交林

環境に優しい作業道の設置

間伐材を搬出することで林内環境が良くなると判断される場合、作業道を開設します。山に負担が少なく、急峻な地形に敷設でき、水にも強く、設置工事も早く、コストも安い作業道の敷設を推進しています。



間伐材のチップを敷設した作業道

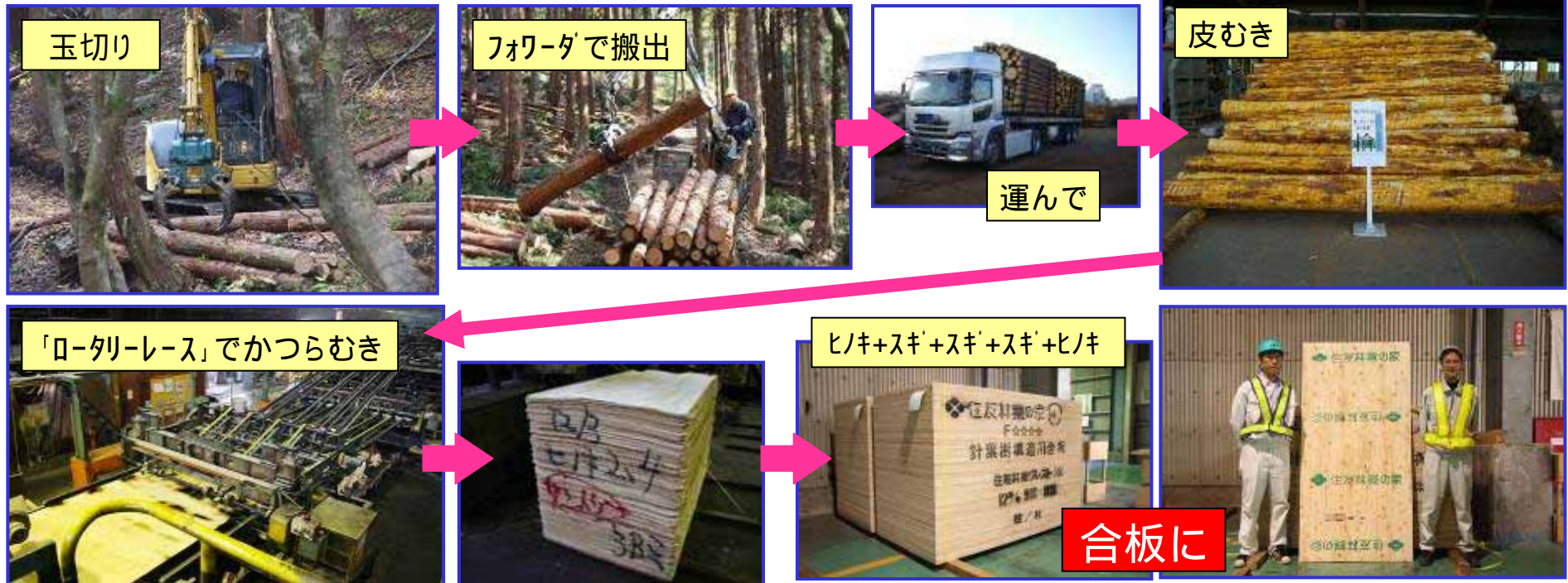
提唱者
の一人
田邊氏



国有林での講習会風景

間伐材の利用促進

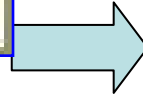
できるかぎり、間伐材の搬出と活用を目指しています。
間伐材の活用は、二酸化炭素の固定、即ち温室効果ガスの削減にも繋がります。



残念ながら合板規格に満た
なかった材も、チップ工場
でチップ化後、製紙工場
で、「紙」になります。



隣接する林分に侵入し拡大し続ける竹林を元の状態へ



地下茎を伸ばして雑木林に侵入し、次々に木を枯らしながら領土を広げている拡大竹林。各地で生産林や雑木林を脅かしています。

竹の生長は早く、林床に入る光を遮るので、他の植生は育たず、生物多様性を阻害し、地下水を減らし、さらに一斉に「竹枯れ」を起こす性質があり、急斜面では崖崩れの危険性も高めます。



斜面の竹林は、いきなり全伐するとかえって崖崩れの危険性を高めるので、まずはヘクタール3千本ほどに間伐し、広葉樹を植樹します。



なだらかな場所では皆伐して、広葉樹の実生を導入します。

鹿等による食害への対策



今、日本各地で、あまりにも増えすぎた鹿が、草や木の皮を食いつくし、山を荒らしています。土がむき出しになり、土壌流失や崖崩れが始まった箇所も増えてます。



稚樹・実生を育てるために、部分的に植生保護柵(獣害防止柵)を設置しているケースもあります。

崩壊地の再緑化工



山腹の大規模崩壊地



花崗岩が風化したマサ土がむき出しになっている。



周辺のカラマツの間伐材で、
まず階段状の土留め工をほどこし、



やがて土に還るヤシネットで土砂を止め、
周囲からの種の実生を待ちます。

松枯れ(マツノマダラカミキリ+マツノザイセンチュウ)対策

全国の山で、相変わらず松枯れが進行中です。後継樹がある山での自然な遷移ならいいのですが、跡継ぎになる主役が見当たらない山では、松を守ったり、植樹をする必要があります。結構大変な作業です。



ナラ枯れ(カシノナガキクイムシの大発生)対策



日本海側のコナラやミズナラ、クヌギ等の巨木はほぼ全滅。太平洋側にも、長野、群馬、岐阜、愛知、滋賀、京都、大阪、岡山などから侵入中。この虫はブナ科の巨木を食い荒らす。

かつての薪炭林が放置され、巨木化し始めているのが原因。

最近の熊の出没にも影響？



みずいく 水育「森と水の学校」

「森と水の学校」は、サントリー天然水のふるさとで開かれる自然体験教室
テーマは、「森」、「水」。地元環境活動家の方々と連携して実施。



森の奥を流れる本谷川を散策

「天然水の森 奥大山」

奥大山ブナの森工場

【これまでの参加人数】

04～11年

約12,000人



水を育む森で植物を観察

九州熊本工場

「天然水の森 阿蘇」



白砂の清流・尾白川を探検

白州蒸溜所・水工場

「天然水の森 南アルプス」



改めて、いま日本の山で起こっている
問題を要約すると

人工林問題も、
鹿の食害も、
拡大竹林も、
松枯れも、ナラ枯れも……

生物多様性の劣化

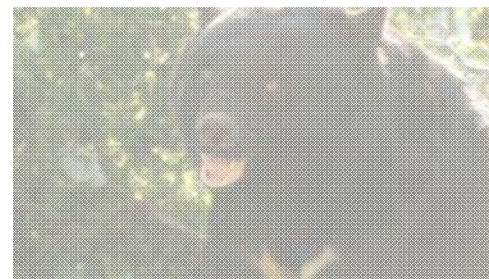
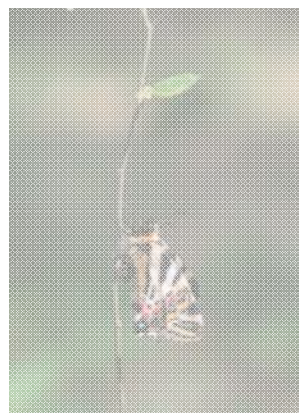
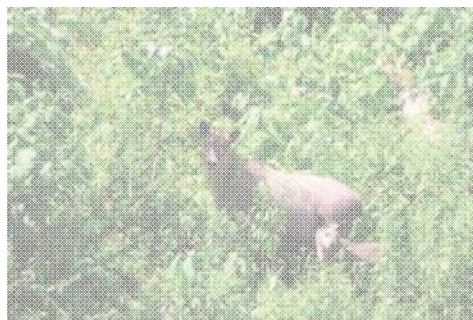
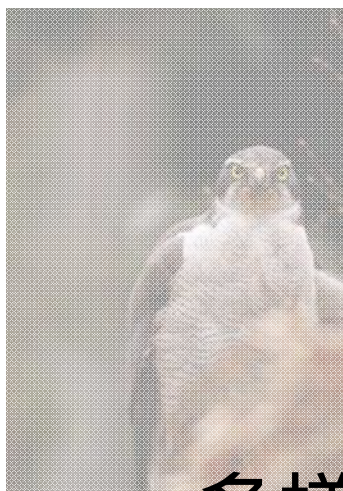
という一言につきる。

その土地本来の 多様性を、いかに再生していくか。

生物多様性という言葉は、しばしば、
遺伝資源などの経済的価値で語られる。

しかし、本当は、多様であることが、
「**環境の健全さ、変化への強さ**」の
バロメーターであることの方が重要。

1種類の樹で構成されている森よりも、
10種類の樹がある森の方が、
10種類の木がある森よりも100種類の樹がある森の方が、
よりバランスがとれ、より健康で、**環境の激変にも強い。**



多様性に富んだ**豊かな森**をつくることで、
多様性に富んだ、**豊かな土**をつくり、
その土の力で、**豊かで清浄な地下水**を育む。
それが、「**天然水の森**」の目標です。

